

# 学校の中に地域を

～ぬくもりの里へ～

札幌市立あいの里東小学校教諭 しらまや 白厩 いくこ 郁子

あいの里東小学校は開校 13 年目、あいの里西小学校に続いて鴻城小学校から分かれてできた学校です。開校当時、校舎の前の広々とした空き地には、春は草花摘み、夏から秋にかけては虫採り、冬はスキーと、いつも子ども姿がありました。近年、宅地化が進み、あっという間に多くの家が建って環境は大きく変わりましたが、年々学校と地域との関わりは深まってきています。

今、本校では、生きる力を育む開かれた学校づくり「学校の中に地域を」というコンセプトでさまざまな取り組みを行っています。

## 子育てサロン『あいまるクラブ』

### 1 ～小さな子どもたち、 そしてお母さんとのふれあい

月に 1 回のペースで、地域で子育てをしているお母さんたちが、子どもを連れて学校にやってきました。昨年度から本校で開かれている、子育てサロン『あいまるクラブ』です。その日は、ボランティアの方々によって、玄関ホールに絨毯じゅうたんが敷かれ、遊び道具が広げられ、楽しく自由な空間ができ上がります。午前 10 時を過ぎると赤ちゃんを抱っこしたお母さんや小さな子の手を引いたお母さんがやって来ます。おもちゃ、パズル、お人形、新聞紙やぶり、すべり台など思い思いの遊びをする子どもの横で、お母さん同士の会話や、ボランティアさんとの会話がはずみます。ボランティアさんの顔ぶれも、本校の保護者だけでなく、子育てを終えたお父さんお母さんなど広く地域の中から募集し、現在 35 人の登録があって毎回 10 人ほどが協力してくれています。



子育てサロン「あいまるクラブ」の活動

この子育てサロン『あいまるクラブ』には、毎回 1 クラスずつ、本校の児童も道徳の学習として参加しています。児童の中には、最初から「わあ、かわいい、抱っこさせて」と自分からかかわっていきける子もいますが、どうかかわっていいかわからない子もいます。でも、そんな子も同じ場で一緒に時間を過ごしている内に自然と距離が近くなり、表情が柔らかくなります。6 年生ともなると、赤ちゃんを抱っこしながらお母さんとお話することもあります。この体験が、道徳の時間での交流を通して児童の心に残って人への思いやりの根となり、育っていくことを願っているのです。子育てサロンに参加していた乳幼児も、やがて大きくなって小学校に入学してきます。お父さん、お母さんに手を引かれて入学して来る日、どんな気持ちで小学校の門をくぐるのでしょうか。子育てサロンに小学生として参加する時、自分もこの場にいたなあと、思い出してくれるのでしょうか。

## 4年生社会科学習 『あいの里 歴史発見の旅』 ～地域を創った方から学ぶ 2

あいの里には、『あいの里教育大』『あいの里公園』という2つのJR駅があります。それぞれ駅の前に、素敵なモニュメントが建っています。このモニュメントを創ったのが彫刻家の國松明日香氏です。10月28日、ゲストティーチャーとして、國松明日香氏、そして、日本住宅公団・住宅都市整備公団（現独立行政法人都市再生機構）在職中にあいの里の開発に中心となって携わった札幌学院大学大学院教授の太田清澄氏、札幌市都市計画課長の佐藤達也氏をお迎えして地域公開授業『あいの里歴史発見の旅～私たちの街“あいの里”』が行われました。

あいの里は、新しいまちです。50年前の航空写真を見ると、住宅はほとんどなく、田や畑がほとんど。曲がりくねった茨戸川や用水路、トンネウス沼が目を引きくらしいです。

“あいの里”と呼ばれるようになったのは、昭和58年、今からたった24年前なのです。4年生の児童は、事前に社会科の授業でそういった事柄を本や資料を通して学習しており、そのまとめとして、この『歴史発見の旅』の授業を迎えました。

まず、札幌市都市計画課の佐藤氏から、あいの里の今の様子と昔の様子、あいの里の歴史についてお話をいただきました。勉強してきたこととはいえ、実際まちづくりに関わっている方の楽しいお話に子どもたちは引きつけられていきました。

続いて、開発当時あいの里のまちづくりの中心となってくださった太田氏のお話です。あいの里を、こんなまちにしたかったんだ、という熱意が伝わってきました。参加した保護者や地域の方も知らなかったようなお話もあり、改めてあいの里のことを深く知ることとなりました。

そして、國松先生は、あいの里教育大駅前のモニュメント『MUSE』の写真を提示し、このモニ

ュメントは、あいの里が『芸術と文化の香り高いまち』になるようにとの願いを込めてつくったこと、そして、ここに住む人々みんなでまちづくりをしてほしいことをお話ししてくださいました。

本で読み、写真で見るだけではなく、まちづくりに関わった人たちの顔を見ながら話を聞いたことで子どもたちや参加していただいた保護者、地域の方にとって、大変興味深く実りのある時間となりました。國松先生がおっしゃったように、「みんなでまちづくりを進めていくこと」が大切なのだと思います。



MUSE

## 3 6年総合学習『人にやさしく』 ～お年寄りの手のぬくもりを

本校の校区のすぐ近くにグループホーム『あいの里東倶楽部』があります。6年生は、12月、総合学習の時間に『あいの里東倶楽部』の塚越慶子さんにお越しいたいて、認知症について学びました。塚越さんは、ほとんど知識のない子どもたちに、映像と自分の体験を基にしながら、分かりやすい言葉で認知症について教えてくださいました。そして、認知症サポーターの印としてオレンジリングをくださいました。

その後、子どもたちは、『あいの里東倶楽部』のお年寄りたちとの交流会に向けて準備を始めました。どんなことをしたら喜んでくれるのだろう、どうやったら気持ちが伝えられるのだろうと考え、計画を立てて練習を重ねました。

当日、代表の子が車椅子を押して体育館に入場

## キラリと光る地域の動き

するお年寄りを、6年生全員が拍手で迎えます。子どもたちはやや緊張気味でしたが、塚越さんを始めグループホームの職員の方が温かくサポートしてくださいました。

子どもたちの歌やヨサコイの踊りに合わせて手拍子をしてくれたり、笑顔を見せてくれたりしました。また、グループホームの皆さんからもサプライズの出し物があって、あっという間に時間が経ち、最後に一人一人がお年寄りと握手をしました。両手でしっかりと細い手を握りしめて…。きっと、そのぬくもりは子どもたちの心にも、お年寄りの心にも届いたのではないかと思います。

その後、放課後や休みの日に何人かが誘い合っ  
てグループホームを訪れ、ともに時間を過ごして  
います。もう4年になる、あいの里東倶楽部のお  
年寄りとの交流は、これからも続いていくこと  
でしょう。



「あいの里東倶楽部」との交流会で

本校では、他にも4年生の『ホタルの放流』、『あいの里公園に樹名板をつけよう』5年生の『地域安全マップを作ろう』などさまざまな学習で地域の方に授業に参加していただいたり、交流する機会を設けたりしています。

学校という場で子どもたちと地域の人々が、地域の人と保護者が触れ合い、関わり合うことによって子どもたちが育つ、地域も育つと考えるからです。こういった取り組みが土台となって、学校が

より自然に日常的に、子どもたちと地域の方々が触れ合える場となり、このまちが、ぬくもりのあるまち『あいの里』としてさらに発展していくことを願っています。



ホタルの幼虫をホタル池に放流



公園の木に樹名板を設置



地域安全マップの作成